

「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】登別市立幌別東小学校
【活動の名称】 いじめ防止に関する取組：児童会
【活用した資源】児童会活動
【対象学年と活動の時期】児童会を中心とした全学年

（項目イー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・「いじめのない学校」をスローガンとし、児童会を中心に、各専門委員会が必ず一つ、いじめ防止に関する取組を行う。

【ねらい】

- ・児童一人一人がいじめを自分のこととして考え、いじめの未然防止に向けた活動に取り組もうとする自主的な態度を育てる。

【活動の流れ】

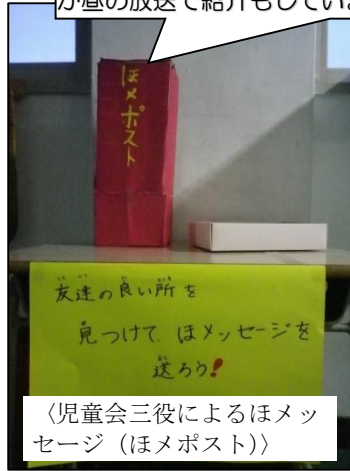
- ①児童会三役で、今年度の児童会スローガンを決定する。
- ②拡大代表委員会で、スローガンの決定と、いじめの未然防止に関する取組を各委員会で取り組むことを周知する。
- ③各委員会で話し合い、企画、実行する。

メッセージは、各学級前に貼り出すだけでなく、放送委員が昼の放送で紹介もしています。



みんな、大きな声であいさつしてくださいね。

〈児童会による朝のあいさつ運動〉



〈児童会三役によるほメッセージ（ほメポスト）〉



〈各学級前にある「ほメッセージの木」〉



全校児童集会で、いじめ防止を呼び掛けました。本の紹介をして、本の紹介をしました。

〈文化委員会によるいじめ防止図書を紹介〉



みんなで食べると、いつもよりもっとおいしいね。

〈健康委員会による全校給食交流会〉



- ④2月の児童総会で、活動反省を行う。

活動) 代表委員会…朝のあいさつ運動を行う。

文化委員会…いじめに関する本を紹介するポスターを作成し、いじめの未然防止を呼び掛ける。

健康委員会…みんな遊びの日を設ける。

放送委員会…昼の放送を活用し、いじめ防止を呼び掛ける。など

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・学校全体で、児童会や各委員会を中心にいじめを未然に防止する活動に取り組むことで、いじめは絶対に許されないことだという児童の意識を高めることができた。

- 児童が活動の内容を考え行動することで、児童が主体的に活動を進めるとともに、異年齢集団による交流が活発にすることにより、上級生が下級生を助け、下級生は上級生を尊敬する心を育てることにつながっています。
- 人との挨拶や会話、言葉で交流する楽しさや素晴らしさを感じることで、児童が互いのよさを発見するとともに、絆を深めることができています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】登別市立幌別東小学校
【活動の名称】 学級花壇
【活用した資源】学校花壇、学級農園
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

（項目エー観点①居場所づくり）

【活動の概要】

- 各学年一箇所ずつ割り当てられた花壇や農園に苗を定植し、水やりや草取りなどの作業を行い、学級で協力して花の世話をする。
- 花壇や農園の様子は、学級で植物の成長が分かる掲示物を作って、定期的に廊下に掲示する。

【ねらい】

- 児童が互いに関わり合いながら花壇づくりを進め、他人の役に立っている、他人から認められているといった自己有用感を高める。
- 花壇・農園での栽培活動を通して、生命の尊さを感じ、生命あるものを大切にする心を育てる。

【活動の流れ】

- 各学級で花壇のデザインを考えたり、花壇の看板を作ったりする。農園に植える苗を決める。
- 5月上旬～中旬にかけて、花壇や農園に苗を定植する。
- 各学級で水やり当番や草取り当番を決めて取り組む。



ぼくたちが、ちゃんと水やりをやっているから、きれいな花がさいたよ。

〈友達と協力して水やり〉



〈学年ごとにデザインを考えた花壇〉



6年生に手伝ってもらって、上手にできるね。

- 花壇や農園の植物の様子を記録し掲示する。



〈花壇・農園の様子を記録する掲示板〉



みんなで一緒につくったにんじんだから、とても美味しかったよ。

〈農園の様子〉

（児童の感想）

- 1年生が何度か一緒に作業をするうちに私の名前を覚えてくれてうれしかったです。（6年生）
- 6年生が教室にむかえにきてくれて、水やりをしたり、ざっ草をぬいたりして、すごく楽しかったです。（1年生）

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- 友だちと協力して積極的に取り組もうとする態度や植物を大切にしようとする態度が養われた。
- 花壇の中に入って足跡をつけるといったいたずらなくなった。

- 友達と協力して水やりや草取りを行い、根気よく育てる活動を通じて、人と協力することの大切さや楽しさ、草花等を大切にする優しい心を育てることができています。
- 花壇や農園の様子を定期的に掲示することで、毎日の活動の充実が図られるとともに、他の学級のがんばりやよさを認める素直な心を育てることにつながっています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】浦河町立浦河小学校
【活動の名称】 「児童集会・委員会集会」の指導の充実 ～「交流を深めるんだから集会」～
【活用した資源】児童会運営委員会
【対象学年と活動の時期】全学年 7月

（項目アー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・児童会運営委員会が中心となって、ゲームなどを企画し、全校児童で楽しむ集会を実施する。
- ・1年生から6年生までで構成された縦割り班がチームとなる活動を行う。

【ねらい】

- ・異年齢での交流を通して、互いを認め、関わり合いながら活動に取り組ませる。
- ・学校生活の充実に向け、好ましい人間関係を深めるため協力して活動に取り組もうとする自主的・自律的な態度を育む。

【活動の流れ】

①児童会運営委員会が中心となり、集会の内容を考え、準備を進める。

集会は、どんな活動がいいのかな。

1年生から6年生までと一緒に楽しめる活動がいいよね。

②代表委員会に集会の内容を提案し、縦割り班長が内容を了承・把握する。
③集会前に2回の縦割り班会議を行い、班ごとに作戦会議・練習を行う。
④集会を行い、全校児童の交流を行う。



〈運営委員会の企画会議〉

- 集会プログラム
- 1 はじめのあいさつ
 - 2 ゲーム
 - ・障害物競争
 - ・人間サッカー
 - ・しっぽとり
 - 3 感想交流
 - 4 おわりのあいさつ



〈障害物競争〉



〈人間サッカー〉

⑤集会の終わりに、それぞれの班から感想を発表する。

（上級生）

- ・全校のみんなが仲良く遊んでくれて、この集会を企画して本当によかったと思いました。

（下級生）

- ・障害物競争で、みんなが最後まで応援してくれて、がんばって走れたのでうれしかったです。
- ・人間サッカーでゴールできてうれしかったです。いろんな学年の人とあそべて楽しかったです。またしたいです。
- ・二人三脚の時、お兄さんが優しく一緒に走ってくれて、転ばずに走ることができました。うれしかったです。



〈感想交流〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・集会を通して、楽しい時間を共有することで、仲間意識が高まった。
- ・縦割り班で行うことにより、上級生には下級生に優しくする心、下級生には上級生を尊敬する心が育った。

○ 事前の活動から反省まで、異年齢集団による活動として行ったため、上級生の優しい心や下級生の尊敬する心を育成することにつながっています。

○ 年間を通じて、意図的、計画的に、異年齢集団による交流活動を位置付けたため、学校全体の絆を深めることができています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】木古内町立木古内小学校			
【活動の名称】 地域の安全マップづくり			
【活用した資源】地域住民の声（保護者の声）、児童会活動			
【対象学年と活動の時期】全学年 5月～6月			

（項目イー観点③環境づくり）

【活動の概要】
・自分たちが住む地域の危険箇所や安全な場所を確認し、安全マップを作成する。

【ねらい】
・自分たちが生活する地域の環境に目を向け、安全な生活を過ごしたり自分の身を守る意識を高めたりする。
・近所に生活する児童が互いに声を掛け合う人間関係づくりの場の1つとする。

【活動の流れ】
① 校外子ども会会議実施前に、自分たちが住む地域の危険箇所や安全な場所を家の人に聞いておく。

〇〇商店のところで横断するときには、横断歩道がないから左右を確認しないとね。

スーパーマーケットの駐車場は、車の出入りが多いから危険だよ。

〇〇センターの近くの細い道路は、夜になると暗いので通らないようにした方がいいよ。

② 校外子ども会会議で、危険箇所や安全な場所を確認する。

「校内子ども会会議」では、住んでいる地域が同じ児童同士で集まり、お互いにきまりを確認し、より安全な校外生活を送れるようにするために話合っています。

③ 生活委員会で、各地域の危険箇所や安全な場所をマップにまとめる。



〈安全マップを確認する児童〉



〈生活委員会でまとめた安全マップ〉

④ マップを全校朝会で全校児童に紹介し、その後、校内に掲示する。

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】
・地域の危険箇所や安全な場所についての話題を共有する場面が増えた。
・異学年の児童同士が話をしたり、上学年の児童が下学年の児童の安全に気を配ったりする様子が見られるようになった。

- 〇 同じ地区に住んでいる児童同士が顔を合わせるだけでなく、危険な場所を確認し合うことで意識の共有ができ、互いの存在を身近に感じるにつながっています。
- 〇 安全マップをつくることを通して、上級生が下級生を思いやる心や上級生のリーダーシップを育むことができます。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】木古内町立木古内小学校
【活動の名称】 PTAによる交通安全標語づくり
【活用した資源】 PTA活動
【対象学年と活動の時期】 全学年 6月～年度末

(項目ウ—観点③環境づくり)

【活動の概要】

- ・PTAの安全活動として、児童から交通安全標語を募集し、選出された標語をポスターにして地域の各所に掲示する。また、応募された全作品を校内に掲示して紹介する。

【ねらい】

- ・標語づくりや標語を町内に掲示することを通して、町と小学校の連携を密にする。
- ・応募された全作品を紹介することで、交通安全への意識を高めたり作品のよさを認め合ったりする。

【活動の流れ】

- ① PTAによる交通安全標語の募集を受けて、各学級で標語づくりに取り組む。
- ② 学年で3点ずつ選出された標語をポスターにして、児童や保護者が多く訪れそうな場所に掲示する。
- ③ 応募された全作品を校内に掲示して紹介する。

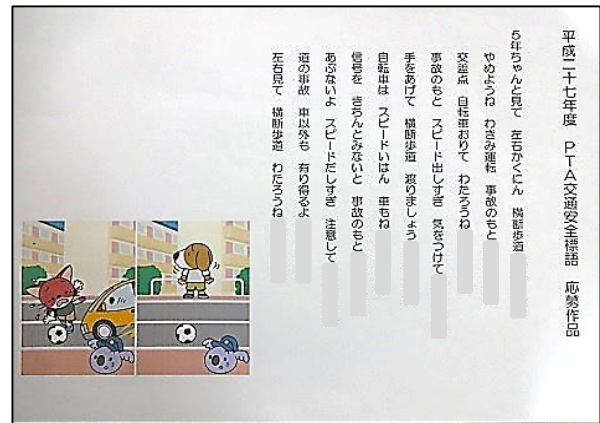
ぼく、前に飛び出しちゃって、ヒヤッとしたことがあるからわかるよ。



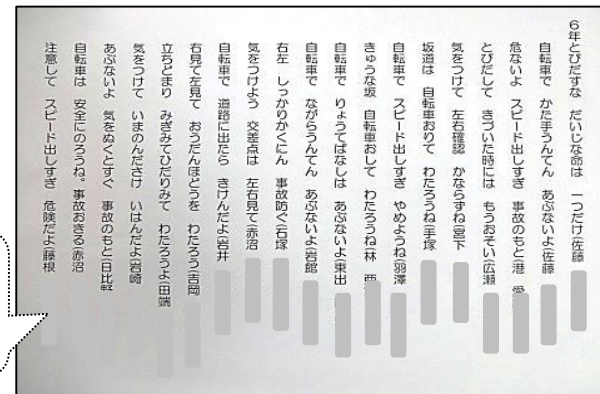
この標語だと、運転手さんに、わたしたちのことに気付いてもらえて、注意してもらえるね。

〈学年で選出され、町内に掲示されたポスター〉

高学年は、自転車のスピードのことを書いている人が多いね。つついスピードを出してしまうから気を付けよう。



〈校内に掲示された応募作品〉



- ④ 児童に作品を鑑賞させ、各学級でよさを認め合う活動を行う。

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・車、自転車、歩行者の立場から交通安全について考えることができ、安全意識が高まった。
- ・選出されなかった作品も校内に掲示し、多くの児童が互いの標語のよさを認め合うことをとおして、価値観の共有を図った。

- 全学年の標語を掲示し、そのよさを児童が互いに認め合うことで、自己存在感や自己有用感を高めることにつながっています。
- PTAや地域と連携を図ることにより、児童の活動が多くの場面で周知され、活用されています。



「主な活動（概要）」（小学校）

【学校名】せたな町立北檜山小学校
【活動の名称】 折り鶴集会
【活用した資源】児童会
【対象学年と活動の時期】全学年 7月

（項目イ—観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・全校児童が協力して折り鶴を作成し、広島へ送るとともに、異学年の絆を深める。

【ねらい】

- ・全校で折り鶴を折り、広島へ送る活動を通して平和について考える機会とする。
- ・上級生が下級生に鶴の折り方を教え、縦割りの活動を通して異学年の交流を深める。

【活動の流れ】

- ①児童会執行部が中心となり、集会の計画を立てる。
- ②絵本「おりづるの旅」を聞く。



〈児童会執行部による説明〉



〈縦割り班活動の様子〉

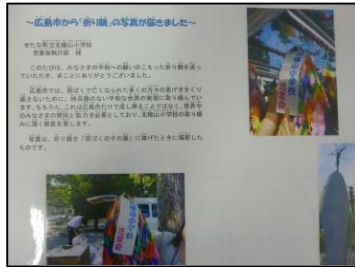
当日のプログラム

- 集会の趣旨説明
絵本「おりづるの旅」の場面や「原爆の子の像」の写真上映
- 鶴の折り方説明
- 鶴を折る活動
縦割り班で高学年が低学年に教える。
- 折り鶴教室開催の連絡

- ③児童会執行部を中心に「折り鶴教室」を開催し、縦割り班で鶴を折る。
- ④児童会執行部、代表委員を中心に千羽鶴にする作業を行う。
- ⑤できあがった千羽鶴を全校児童にも見てもらうため、ホールに展示する。



〈鶴の折り方を教える4年生〉



〈広島市から届いたお礼のお手紙〉



〈ホールに展示した折り鶴〉

（6年生の感想）
みんなで仲よく折れました。平和を祈りながら、他の学年と交流できたのがよかったです。

（1年生の感想）
お兄さん、お姉さんに教えてもらったら、上手に折れました。嬉しかったです。

〈折り紙集会を終えた児童の感想〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・上級生が積極的に下級生のお世話をするようになった。
- ・児童一人一人が、相手を思いやるやさしい言葉遣いに気を付けるようになった。

- 異年齢による集団活動を通して、互いを思いやる気持ちを育てるとともに、同年齢の児童同士の絆づくりにつながっています。
- 児童が「楽しい」と感じ、「関わり合う喜び」を獲得できるように工夫したことにより、異年齢集団の交流を効果的に進めることができています。

